
心の置場

バルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の置場

【コード】

N0994V

【作者名】

バルル

【あらすじ】

え〜っと、こんな流れってないかな？ないわな。

俺と相田は大学の同級生で、ゼミが一緒になってから急に親交を深めた。俺んちのコタツで二人してごろごろとしながら本を読んで、ふと、心に沸いた寂しさを、相田にぶつけてみた。

「彼女欲しいな…誰でも良いから、一生俺と一緒にいてくれないかな。浮気とか絶対しないからさ」

「誰でもいいって…友達じゃないんだから無理だろそれ」

相田が本を読みながらいつものようにクールに答える。

「そうだよな…友達が居れば良いっていう今の心境が変わらないかぎり彼女なんかいららないよな」

「でも、友達はお前の事を一番に考えてくれないと思っぜ、恋人ってのは、やっぱりその人を一番に思うから恋人なんだろ。逆に言うならお前だってその人を一番に考えなきゃダメなわけだ。だから誰でもいいなんて無理」

「一番かあ…俺はお前を一番大事に思ってるぜ」

「はあ？気持ちわりいな〜だけど、まあ俺もお前は大事さ。親友だろ」

本から目を離して、俺をなんとなく優しい目で見た相田。本当にこいつは良い奴なんだよな。

「ああ。お前がいればいい…って思うの変かな。お前、料理うまいし、綺麗好きだし、笑いのツボ同じだし、趣味もあうし…いっしょにいて楽なんだよなあ」

「うーん…俺らって、二人でいるせいで彼女の必要性を感じないタイプか？それって駄目なんじゃ…」

相田が、ごろんと、仰向けに寝返った。俺んちの天井をじっとみながら、俺のくだらない話につきあってくれる。

「だって実際、お前以上に合うやつなんていないよ…どこにいるんだよそんな女」

「そんな事知るかよ。でも探さなきゃだめだろ」

「お前、なんか余裕だな…ち、もてる野郎はこれだから…」

「別にモテないし。彼女いねえだろが」

俺は、てっきり相田には彼女が居るもんだと思っていたので少なからず驚いた。

「いないの？なんだ…いっしょじゃん。はあ…それならもう、いっそお前でいいか」

「え？」

「男同士ってのもありだと俺は思うんだが…」

「嫌、ないだろ…」

「なんでだよ、俺はお前がいいんだよ」

「いいって、それ恋愛感情ないだろ」

「ジーさんになるまでずっと一緒にいたい相手だと思っただから、それを恋愛感情と思ってくれてもいい、深い愛だと思えば愛だ」

「思えないし、まてって…ちょ…」

俺はちょうど、相田が上をむいてねっ転がっているのは幸いとはかりに、相田にのっかって、思いつきりぶちゅっどキスをした。

「ぎゃー…！お前、なんて事するんだよー！！」

「何って、キス。恋人ならするだろ、意外と可愛い反応すんのなお前」

「可愛いとか言っなバカ」

「ふむ…いける気がしてきた」

「なにを…」

「いいからいいから」

「よくねえって…！ぎゃー…」

ちてちて、この後相田と俺はどっになったでしょうっか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0994v/>

心の置場

2011年10月8日19時28分発行